

# 2021.6.2原電前抗議行動報告

## プログラム

- ・はじめのあいさつ
- ・シュプレヒ・コール
- ・主催者スピーチ
- ・脱原発スピーチ
- ・参加者スピーチ
- ・申入書読み上げ  
(首都圏連絡会)
- ・申入書読み上げ  
(反原発自治体・議員連盟)
- ・原電前アクション音楽
- ・行動提起
- ・シュプレヒ・コール
- ・おわりのあいさつ

参加者：62名 100円カンパ金額：¥6,935





志田 文広  
(首都圏連絡会)

今回の司会は私(志田)。水戸地裁の敗訴を受け、即日控訴という不倫理な行動を起こした原電への怒りを開始のあいさつとさせて頂いた。



中村 泰子  
(首都圏連絡会)

今回からこの抗議行動の時間を45分から60分にしたことを受けて、いつも最後にだけ行っていたシュプレヒ・コールを最初にも入れることにした。



主催者スピーチ  
柳田 真  
(首都圏連絡会)

スピーチの要旨: ‘STOP! 東海第二原発’の柳田です。たんぼ舎出身です。2つ話します。1つは不思議なことに、この原電が利益を上げてるそうです。もう一つは関西の大集会と連帯する話、その2点をお話し致します。原電がこの間、21日に決算を発表しました。利益が27億円だそうです。この会社は電気を全くつくってませんよね。生産物がまったく無い会社なんです。なんで27億の黒字になるんでしょうか。しかも21年3月の基本料金が933億円集まったそうです。この933億というのは各電力会社が電気をもらうという約束で、5つの電力会社が出してるんです。もう10年近く。

5つの電力会社というのは東京、東北、中部、関西、北陸、この5社です。まったく電気をつくってないのに933億円もらっている。よっぽど電力会社というのは儲かってるんでしょうね。もしこれを無しにすれば電気料金をぐっと下げられますよね。そうやって10年近くもこの会社は生き延びている。我々はこういうカラクリの上に立っている。そして来年9月に原発を再稼働しようとしている。私たちはこういう会社をどうしても許せません。実質、私たちは来年9月の東海第二原発の再稼働を防ぎたい、こういう風に思います。

もう一つは、関西の運動の盛り上がりとその原電前の運動が連携することです。今、日本で40年越えの老朽原発が4つあります。今月6日には関西で大集会があります。この日本原電の運動を盛り上げることが非常に大事なんです。参加できない中で茨城の披田さんからメッセージが来てまして非常に激励しております。‘関西で老朽原発を動かさないぞ!’、という運動と同時にこの原電前でも、老朽原発を動かさないぞ!という運動を盛り上げることがとても大事なことです。そういうことで私たちは関西より少し遅れてこの運動を始めましたけれども、この運動も人も増えて少しずつ盛り上がってきております。大きな旗も立っております。そういったかたちでますます連帯して盛り上がっていくことが大事だと思います。

原発の電気もまったくつくってない原電が27億の利益を上げている。こういう会社に皆さんの怒りの声をぶつけていきましょう!一緒に頑張りましょう!



脱原発スピーチ  
披田 信一郎さん  
(東海第二原発の再稼働を止める会)

スピーチ要旨: こんにちは、披田です。みなさん今日もお集り頂いてありがとうございます。東海第二原発の再稼働を止める会の事務局をやっております披田と申します。今日は2つ、裁判後の経過とその裁判の中の(深層防護の)第5層を軸に私たちは裁判をしようとしたんですけど、その実態についてご報告をしたいと思います。

裁判で前田裁判長は少なくとも30キロ圏内の原告に対しての人格権の侵害となること、東海第二原発を運転することによって認められる、として原告の訴えを認めました。

それに対し、原電は深層防護の欠落を指摘した判決を精読せずに即日控訴に至りました。しかし30キロ以上の原告に対しては、‘30キロ圏内



今回の参加者は62名だった



の住民に規制委員会の特定重大事故対策が対象となっている’という理屈で、認められませんでした。ですので、第1層から4層までは規制委員会が認めたからといって安全は担保されていない、ということをもって今後高裁でがっぷりと闘うこととなります。それで高裁の一ばん番号が最後の第21部に我々の裁判が継続されることとなりました。まだ準備がいろいろありますので早くも秋以降の攻防となるわけですが、私たちは裁判だけにかかわるわけではなく、このような直接的な行動を含めた市民全体の闘い、政治的な闘いなど総力をあげて皆さんと闘うということを改めて明らかにしておきたいと思えます。

そしてこの裁判の原告の勝訴に導いた理由となった避難計画とそれを実行的に運営できる体制がそもそもできていないし、今後もできるはずがない、このことについてもう少し具体的に報告したいと思います。

1月31日から毎日新聞の日野行介さんという方が粘り強くこの避難計画について記事にしているのですが、詳細な調査報道でその欺瞞性を明らかにしています。その見出しだけでもご紹介したいと思います。まず、1月31日付けの1面トップで、「東海第二避難所18,000人分不足。2018年時点でも増えず、責任あいまい杜撰な算定、トイレ、倉庫も避難所になりえるという扱いになっている、1人2㎡の基準は狭すぎる。」という見出しでありました。そして翌日の記事で、「非現実的算定が次々に、図書館の本棚、ホールの客席を含めて」というものが出されました。

これについて翌日、茨城県は釈明の会見を開き、確かに算定は間違っていたけれども、18,000人ではなく6,900人が現時点での不足分だという釈明をしました。こういった記事

が2か月続き、4月3日の記事で、「避難所の再調査も過大な算定、東海第二の避難所不足は20000人に及ぶと報道されました。こういった茨城県のずさんな調査が毎日新聞で徹底的に報道されました。そして9日に茨城県知事が’再調査も過大な算定があった’と記者会見で釈明しています。

94万人もの住民をどのように避難させるのか、茨城県内に40万人、県外に54万人の避難者をどのように避難させるのか、考えてみても難しいのですが、一応広域避難計画はできている。しかしその実態は、実際には避難できないようなスペースまで避難計画に組み込まれていたわけです。そもそも自然災害の避難においても2㎡/1人という基準はなく、原発事故時の避難のために決めたものなのです。さらに感染症対策ということを考えたらこの2倍も3倍もなければならぬのに、今のこの数合わせですらこれだけのインチキがなされている、ということを確認する必要があると思えます。

そして毎日新聞ではこの避難の問題以外にもさまざまな問題がある、と書いてあります。特に福島事故の際にどういう問題があったのか、ということなど、「砂上の原発防災」というシリーズとして記事にしています。これも見出しだけ報告します。

「要介護者の搬送、廊下で生活。病院の一斉移送は想定せず、活かされぬ空間線量、観測地の評価、伝達方法あいまい、屋内退避の想定外触れず、車両避難貧弱な体制、自治体汚染検査の職員不足、バスの確保不明多く、ヨウ素剤進まぬ配布。」という風に現在まで4回でしたか、このシリーズは続いています。

東海第二は酷いですが、それ以外に再稼働している川内、玄海、福井の高浜や大飯においても、避難計画はお粗末で、それを避難計

計として形の上ではつくってありますが内実はとても酷いということを私たちは再確認する必要があると思えます。

私たちの勝訴判決の中でそのことだけが浮き彫りになったという問題があるにせよ、これは規制委員会が審査していない、形式的には内閣府にある中央防災会議と原子力防災会議がお墨付きを形だけつけるということになっていますけれども、その実態はこのような現実だということを私たちも喝破しながら闘いを続けていく必要がある、という風に今さらながら思います。

ちょっと細かな話になり過ぎましたけれども、この問題だけがすべてではありませんけれども、こういったことを含めて、「原発の再稼働をする」ということが基本的にムリなんだということを再度の確信をもって闘いを続けていき、再稼働を許さず、廃炉をさせていくことを、みなさまとやり抜くことの決意の表明をさせて頂き、ご報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

取り組み’と書いてあるのですが、それほど皆さんに言うほどの取り組みはしてませんので、「10年前の3.11を振り返る」というタイトルでお話したいと思えます。

皆さんは3月11日の日はどこでどんな体験をしましたか。私は東京の葛飾で暮らしていました。原発事故で福島県をはじめ、近隣の陸地、海を汚染しました。私の近くでは飲み水である金町浄水場、水元公園、千葉県松戸市が放射線量の高いホットスポットができてしまいました。そしてTVでは食べ物・野菜などの汚染がたびたび報道されていました。身近に迫る放射能被害の他に私が不安だったことは、原発の爆発のすさまじさと何度も続く余震でした。それでも私と夫だけなら長期の避難は考えなかったことでしょうか。20歳前後の娘の健康を考えると、放射線の影響が心配でした。

私はイラク戦争時に使用された劣化ウラン弾によって本人ばかりか戦後何十年も経って子どもたちや胎児に被害が及んでいた写真などをその前に見ていました。核のゴミは恐ろしいと思いました。私だけだったらいいけれども、これを知ってしまったからにはこの放射能被害を娘たちにさせてはいけませんと思いました。そのとき東電の役人や政府の関係者は、自分の家族を海外に避難させたと聞きました。海外のネットニュースでは、



参加者スピーチ  
荒木正子さん  
(首都圏連絡会)

スピーチの要旨：こんにちは、首都圏連絡会の会員の荒木正子と言います。このプログラムに(私のスピーチのタイトルが)「私の原発活動に対しての



アメリカ、中国、韓国の政府などが自分の国民や大使館員に帰国を呼びかけていました。とにかく遠くへ避難しよう、そう決めました。私たちは(2011年)3月末に福岡に避難しました。そして2014年に九州の避難者の人たちと共に裁判をしました。そして昨年の6月に判決がでました。その裁判はひどいものでした。自主避難者への救済は何もないばかりか、福島の人たちへの賠償額もすごく低いものでした。私たち原告団は避難者同士の分断を許さず、すぐに高等裁判所に上告してその裁判が始まっております。

私は娘の就職や結婚と共に関東に戻りました。これからは関東の地で皆さんと一緒に脱原発の運動に関わりたいと思っています。貴重な時間ありがとうございました。



今回のノボりは私を含む首都圏連絡会の原電チームの手違いにより数が少なく、この抗議行動の盛り上がり減少させてしまった。このことを数日後に行われる原電チーム会議で話し合う予定。



申入書読み上げ  
久保 清隆  
(首都圏連絡会)

久保から首都圏連絡会の申入書が読み上げられた。内容は、原電が、①東海第二原発周辺の住民との話し合いの場をもたず、来年の9月頃に事実上の再稼働に持ち込もうとしていること、②原発事故時の緊急時対応についてのその姿勢③80か所ものデータ改ざんの真相の開示④大人数での再稼働工事を進めているにもかかわらず、この申入書の対面での受け取り拒否、についての追及がされた。

この読み上げの一番の要諦は、原電が国に提出した「検査申請書」の内実を暴露したことだと思われる。

つまり、形式上の原電の再稼働工事期限は来年12月だが、検査の過程でその数か月前の9月ごろに原子炉容器に燃料棒の装填がされる。検査といえ、原子炉に燃料棒が装填され、原子炉の稼働自体に問題がなければこれは止まらない。よって実質の再稼働工事期限は来年9月ごろとなる。



申入書読み上げ  
武笠 紀子  
(反原発自治体議員・市民連盟)

反原発自治体議員・市民連盟の申入書読み上げは武笠紀子さんにして頂いた。原電が高裁へ提出した「控訴理由書」の不倫理性など(原発事故時の緊急時対応不備、規制基準及び判決に対するはき違えた考え方)、原電の財務状態の劣悪性について追及された。

今回の反原発自治体議員・市民連盟のこの読み上げも原電の急所を的確に突くことにより、改めて原電の不倫理性が認識できるものだった。

また、この原電が提出した「控訴理由書」の中身を的確に追及することにより、これにとどまらず、水戸地裁の裁判において、原電の原発を扱う会社としての資格のなさが暴露されていたこともわかるものだった。



今回の原電前抗議行動の音楽はいつもよりもさらに原電の再稼働阻止への思いが強かったのか、4曲も奏でられた(メドレー)。

曲目はお馴染みの放射線を受けた野菜の気持ちを表現した♪野菜デモ～酒を片手に漁師が放射能で汚染された海を見ているときの悔しさを表現したブルース曲(語り曲)の♪海岸の舟歌～シンプルに放射能からふるさとや自然を守ることを訴えた♪君と僕の未来～正義が通らない理不尽な世の中で、市民がそれでも闘い続けることの尊さを表現した♪原電前の闘志(ブルース曲)だった。





行動提起  
横田 朔子  
(首都圏連絡会)

首都圏連絡会の行動提起として横田から2つ提起があった。1つはこれから行われる官邸前抗議行動について。

3月で反原連がそれまで行ってきた脱原発行動が休止になったが、首都圏連絡会等が、‘この官邸前抗議行動を終わらすわけにはいかない’という思いで今月18日から行うこと。

2つ目は仮タイトル‘キャラバン’について。今後予定している東海第二原発がある茨城の人たちと連携しての再稼働阻止行動について提起された。

原発が進めている極めて危険な老朽原発の再稼働工事をコロナ禍といえ、指をくわえて見ているわけにはいかない、その強い気持ちのもとに行うことが提起された。



シュプレヒ・コール  
中村 泰子  
(首都圏連絡会)

そして最後にもう一度中村にシュプレヒ・コールをしてもらった。

今日2回目となるこのコールでは、‘老朽原発うごかすな’を行動タイトルにしている関西の人たちと連携してこの原発前抗議行動を行っていることを改めて意識して、この、‘老朽原発うごかすな’のコールも入れてもらった。

今月6日に関西で毎年行われている‘老朽原発うごかすな大集会’が行われる。

美浜3号機はすでに原子炉への燃料装填を終え、今月23日に再稼働されようとしている。これを絶対に阻止しなければならない。

そのことも踏まえ、この2回目のシュプレヒ・コールを行った。

次回の原発前抗議行動は、  
7月7日(水)17:00～  
その後の東電前抗議行動は  
18:45～  
官邸前抗議行動は、  
6月18日(金)18:00～